

ハスモンヨトウ情報第2号

平成22年9月1日
愛知県農業総合試験場
環境基盤研究部病害虫防除グループ

1 発生状況

- (1) ハスモンヨトウのフェロモントラップにおける誘殺数は、碧南市では7月下旬以降平年並に、また長久手町では平年よりやや多く推移するなど、地域によってばらつきがあります(図1)。
- (2) 8月下旬のダイズにおける被害株率は、西三河の一部で高いほ場があるものの、全体的には平年並です。
- (3) 8月下旬現在、キャベツほ場でのハスモンヨトウ幼虫の発生量は平年並ですが、気象予報によると、9月も気温が高いと予想されており、今後急増する可能性があるので注意してください。

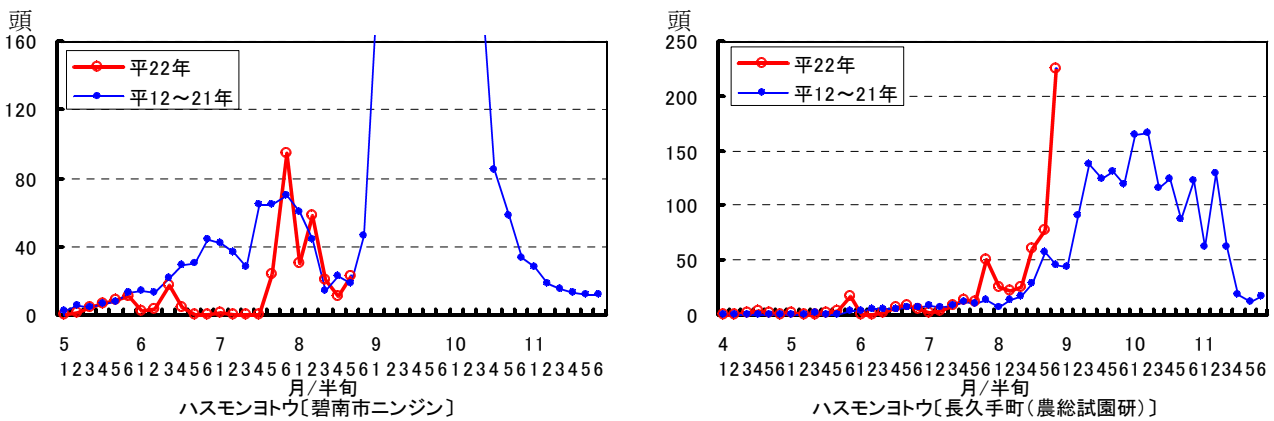


図1 フェロモントラップにおけるハスモンヨトウの誘殺数

2 防除対策

- (1) ハスモンヨトウは残暑が厳しい年に多発する傾向があり、特に、降雨が少ない場合には大発生することがあるので、早めの防除を心がけましょう。中齢以降の幼虫は、薬剤による防除効果が低い傾向にあるので、若齢幼虫期(分散前)に防除しましょう。
- (2) 有機りん剤、合成ピレスロイド剤などに対して感受性が低下している個体群が確認されているので、防除薬剤の選定に当たっては注意してください(下表)。
- (3) ダイズほ場で白変葉が目立ち、幼虫の発生が多い場合は、直ちに防除しましょう。
- (4) イチゴでは、新芽の部分を好んで食入するため、見つけにくいので、新芽の部分をひらいて寄生を確認しましょう。



図2 分散前のハスモンヨトウ若齢幼虫



図3 ハスモンヨトウ中齢、老齢幼虫

ハスモンヨトウの主な防除薬剤と使用基準

作物名	薬剤名	薬剤の 系統(注)	希釈倍数(倍)	使用時期 収穫前日数	使用回数
ダイズ	ロムダンフロアブル	a	2,000	収穫14日前まで	3回以内
	ラービフロアブル	b	750~1,000	収穫14日前まで	2回以内
	マッチ乳剤	c	3,000	収穫14日前まで	2回以内
	トレボンEW	d	1,000	収穫14日前まで	2回以内
	トルネードフロアブル	e	2,000	収穫7日前まで	2回以内
	マトリックフロアブル	a	2,000~3,000	収穫前日まで	3回以内
キャベツ	マッチ乳剤	c	3,000	収穫7日前まで	3回以内
	アフーム乳剤	f	1,000~2,000	収穫7日前まで	3回以内
	プレオフロアブル	g	1,000	収穫7日前まで	2回以内
	トルネードフロアブル	e	2,000	収穫7日前まで	2回以内
	コテツフロアブル	h	2,000	収穫3日前まで	2回以内
	フェニックス顆粒水和剤	i	2,000	収穫前日まで	3回以内
ハクサイ	アタブロン乳剤	c	2,000	収穫7日前まで	4回以内
	ラービフロアブル	b	750~1,000	収穫7日前まで	2回以内
	アニキ乳剤	f	1,000~2,000	収穫3日前まで	3回以内
	フェニックス顆粒水和剤	i	2,000	収穫前日まで	3回以内
イチゴ	ラービフロアブル	b	1,000	定植30日後まで	3回以内
	プレオフロアブル	g	1,000	収穫前日まで	4回以内
	カスケード乳剤	c	4,000	収穫前日まで	3回以内
	コテツフロアブル	h	2,000	収穫前日まで	2回以内
	トルネードフロアブル	e	2,000	収穫前日まで	2回以内
	アフーム乳剤	f	2,000	収穫前日まで	2回以内
キク	ゼンターリ顆粒水和剤	j	1,000	発生初期	—
	マトリックフロアブル	a	2,000	発生初期	4回以内
	フェニックス顆粒水和剤	i	2,000	発生初期	4回以内

注) 薬剤の系統 a=IGR剤(脱皮促進)、b=カーバメート系、c=IGR剤(脱皮阻害)、d=合成ピレスロイド系、e=オキサダイアジン系、f=マクロライド系、g=プロペニルオキシフェニル系、h=ピロール系、i=ベンゼンジカルボキサミド系、j=BT剤